新発田市　令和4年度　第6回定例記者会見

1　日　時　　令和4年8月30日（火）午前 11 時30分～

2　場　所　　ヨリネスしばた501会議室

3　内　容

【市長発表項目】
○新発田さわやかルームの移転について

○市内全小学校で行う「防災キャンプ」の取組について

○パラ ID ジャパン・年代別オープン卓球大会2022の開催について

【その他】
○みんなのパラスポフェスタ2022
○城下町しばたスポーツフェスタ
○4 館合同　公民館こども交流体験事業「ボッチャ体験会」
○映像と音楽でつづる「蕗谷虹児の人魚姫」
○新発田市音楽文化協会第 70 回記念定期演奏会
○さかなまつり2022「ツブ貝詰め放題＆ワタリガニの特売会」
○寄せ植え体験の開催
○誰でもできる！フレッシュ脳の保ち方～図書館利用で人生を豊かに～
○新潟県父親支援講座

あいさつ
○昨日、新発田まつりのフィナーレを迎えることができました。コロナ禍で、心配する声もありましたが、「こういう時だからこそやりなさい」という多くの市民の声に背中を押され、開催を決断いたしました。23 日の花火大会は予想を上回る皆さんにおいでいただいたということでありますし、27～29 日の本まつりでも、多くの市民の皆さん方にご参加いただいたということで、やっぱり市民の皆さんは、まつりを待っていたんだなと改めて、実感しております。

○十分なコロナ対策をスタッフに命じましたし、市民の皆さん方にも、1 人 1 人ができる対策をやった上で、まつりを楽しんでほしいという呼びかけをしました。まつり後のコロナの変化については、もう少し待たなければなりませんが、今日の発表を見ますと幾分コロナの勢いが収まりつつある感じが見受けられますので、そのような方向でいってほしいというのが実感です。

○8 月 3 日の日には大変な集中豪雨で、下越地方に大きな水害がありました。私は 7. 17 などの下越水害そして 8. 28 の羽越水害、2 年続けての災害をこの目で、そしてこの肌で知っています。その怖さは十分に知っているわけであり、その怖さを知ってるが故に、村上市、関川村胎内市が大変だという報道がありましたので、すぐ電話で各首長さん方にお話をし、エールを送ると同時に、できることは何でもするというふうに話をしました。

○何かできることがあれば、素直に言ってほしいということでアドバイスし、県内市長会として、精一杯応援しようということで、県内の市長の皆さん方にも呼びかけをいたしました。現在、「オール新潟」ということで県が窓口になって、市長会からそちらの方に移管しているようでありますが、被災した市町村長さんからは、災害派遣で新発田の職員が頑張っていただいたというお褒めのお言葉をいただいて大変嬉しく思っています。1 日も早い復興復旧を願っているところです。

○今回、一つ学んだことがあります。市は災害の状況を把握するために、県の総合庁舎の雨量計を見ていたのですが、その雨量計だと大体1時間あたり 20 ミリでした。ところが、菅谷にある国の雨量計は、胎内市と同じだけの 1 時間あたり 70 ミリを示していました。20 ミリの対応しようとして構えているものと、70 ミリの雨に対応するというのは全然違う。つまり今の災害は、短時間に集中して降るということですから、これだけ広大な面積を持つ自治体になると、1 ヶ所だけの雨量計では判断できないということも改めて学ばせていただきました。おかげさまで、全体的には大きな被害がありませんし、市街地で冠水しましたけれども、ここはもう中田川の改修以外に解消する術がないということでありますので、県には、中田川の改修に力を入れていただくよう、これからも精一杯お願いをしていきたいと思っています。

それでは、会見項目について説明をさせていただきます。
最初に新発田さわやかルームの移転について

○学校を長期欠席している不登校の小中学生を対象に、学習の援助をしながら学校への復帰を目指す場所が適応指導教室でありますが、当市の適応指導教室さわやかルームは、これまでカルチャーセンターの一室で運営してまいりました。しかし、年度によっては利用する児童・生徒数が増減する中で、人数が多いときは手狭感が否めないという課題もありました。そこで十分な広さの活動場所を求めて、令和 3 年度から試行的に月 1 回程度、閉校した旧車野小学校を活用した取組を行いました。

○この結果、活動スペースの確保という課題解決はもちろんのこと、近隣の板山集落の皆様のご協力で、敷地内に畑を整備し、農作物を育て、収穫し、調理したものをいっしょに食べるという交流が生まれるなど、副次的な教育効果がもたらされました。この体験を通じて利用する児童生徒は、自信を付け、昨年の中学 3 年生は全員が高校に進学することができました。

○この成果に手応えを感じ、本格的な移転の検討を進めてきましたが、その中での課題が、郊外の旧車野小学校への児童・生徒の通学手段でありました。これまでカルチャーセンターのさわやかルームの送迎は、利用する児童・生徒の保護者などが行ってきましたが、移転後は、カルチャーセンターからの送迎について市が専用の送迎車両を運行することで、利用する児童・生徒や保護者の負担軽減を図りたいと考えております。

○この送迎に係る経費、移転に必要な施設の改修経費等は、9 月定例会に補正予算を計上定する予定であり、議会の承認が得られましたら、改修工事等に着手し、10 月以降、準備が整いしだい、移転する予定であります。現在利用している児童・生徒はもちろん、これまで通室せず、自宅で過ごしている児童・生徒が少しでも興味を持って新たな一歩を踏み出してくれることを願っております。

○以前にも車野小学校への移転を計画したこともあったのですが、遠方になるということで、保護者の皆さん方が子どもたちを送迎するのに、なかなか同意を得られなかったということでありましたので、今回、子どもたちの送迎を市でお手伝いしようということであります。子どもたちは、午前中に教室に行くこともありますが、午後でないと嫌だという子もいるそうであり、一定の時間帯で一定の送迎が叶わないため、なかなか実現できなかったのですが、市でドライバーを確保してカルチャーセンターまで保護者の皆さ

ん方が子どもたちを連れてきていただければ、旧車野小学校さわやかルームまで市でお手伝いをする一定の制度ができましたので、議会の皆さんにご相談をしたいと思っております。

次に、市内全小学校で行う防災キャンプの取組について

〇当市では、主に小学校 4 年生を対象に、児童が防災をテーマとした様々な体験を通じて災害時を生き抜く力を身につけるとともに、自然には災いと恵みがあることを理解し、故郷を大切にする心を育む防災キャンプを実施しております。

〇平成 29 年度に開始して以降、約 3900 人の子どもたちが取組に参加し、この間、市内の全小学校で実施するこの取組が、群馬大学大学院理工学府の研究対象となり、同大学院の金井昌信教授からは、防災キャンプが児童の成長に与える効果について一定の評価をいただいております。単なる学校行事にとどまらず、高等教育機関・防災キャンプの拠点施設「あかたにの家」の地元地域などとの連携により、一層効果的な取組に発展したことを嬉しく思っています。

〇他自治体からノウハウについて問い合わせがあるなど、市の枠を超えて注目を集めており、スタディーツーリズムなどへの可能性に大きな期待を持っているところです。災害を生き抜く力、ひいては、市民の命を守ることに繋がる当市の防災キャンプを、災害協定を結ぶ自治体などに紹介し、この取組を新発田から広めていきたいと考えております。記者の皆さんも PR にご協力をお願いします。

〇村上市や関川村が大変な被害を受けました。SOS を受けて、両自治体に市職員を派遣したところであります。ぜひ子どもたちにも、この防災ということの教育をしっかりと徹底していきたいと思います。スタディーツーリズムについては、当市も最初に手を挙げましたが、県内の学校に気を引いてもらうには少し弱かった部分もありますけれども、この防災キャンプは明らかにスタディーツーリズムに繋がるのではないかと思います。現在、防災協定を結んでいる神奈川県海老名市に新発田のお米を給食に使っていただいております。その縁をより強固なものにしたいということで、今度はスタディーツーリズムで新発田に来ませんかと投げかけているところです。

○旧赤谷小学校の廃校利用の施設でありますし、大学生の合宿に耐え得るだけの宿泊施設になっておりますので、記者の方々に一度ご覧をいただきたいと思います。

最後にパラ ID ジャパン年代別オープン卓球大会 2022 の開催について

○昨年コロナ禍の日本を大いに沸かせ、勇気づけてくれたのが、東京オリンピック・パラリンピックでありますが、この東京パラリンピックに出場した卓球選手や、次のパリパラリンピックを目指す卓球選手たちが、全国から新発田に集結し、技を競います。

○この大会は、平成 31 年に当市が誘致した日本知的障害者卓球連盟による日本代表選手合宿がきっかけとなり、当市のおもてなしや協力体制に感銘を受けた同連盟からの申し出により開催に繋がったものです。

○本来であれば、令和 2 年度に開催する予定でしたが、コロナ禍により、一昨年、昨年と中止せざるを得ず、今回はぜひとも開催できることを願っております。一つの合宿誘致が起因となり、全国規模の大会開催にまで発展したことを大変嬉しく思うと同時に、全国各地から選手のみならず、ご家族やチーム関係者の皆様に、新発田にお越しいただけることは、スポーツツーリズム、パラスポーツの普及振興に取り組む当市として、冥利に尽きる思いです。

○先日の新聞報道によれば、昨年の東京パラリンピックを契機に、パラ競技の認知度は飛躍的に高まったそうであります。この関心の高まりを一過性のものにしないために、そして本大会に県内からも当市在住の美遠さゆり選手を含む 11 人の選手が参加する予定ですので、ぜひ会場に足を運び、盛り上げていただきたいと思っております。

○パラスポーツの話題をもう一つ。10 月 15 日土曜日に当市で初開催となるパラスポーツの競技大会「みんなのパラスポフェスタ 2022」を開催します。障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる共生社会を目指し、誰でも参加できる競技大会です。ぜひ多くの方に参加いただきたいと思います。